



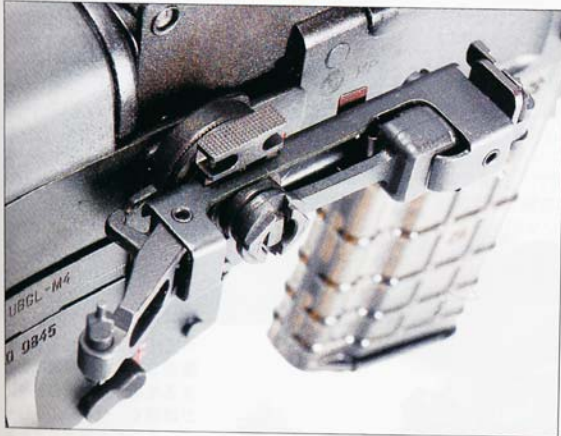
▲▶アーセナル社製新型モデル・アーセナルAR-M1アサルト・ライフル。ブルガリアのアーセナル社は、旧ソビエト原案のカラシニコフ系のアサルト・ライフルを製作している。しかし、自由化後ロシアがカラシニコフ・アサルト・ライフルのロイヤリティーを要求し始めたためAK47の名称をやめ、アーセナルAR-M1アサルト・ライフルの名称で輸出し始めた。ディフェンダー2006でアーセナル社は新型を発表した。新型といっても基本的な構造に変わりはなく、AK47とまったく同一構造を持つ。変更点は黒色プラスチックのハンドガード部分先端にあり、この部分の左右と下面にピカティニー・レールが装備されたところだ。またマズル部分にスリット付きのマズル・コンベンセイターが装備された。



▲▶アーセナル社製モデルM6 UBGLアッドオン・グレネード・ランチャー付きモデルAR-M1Fアサルト・ライフル。AR-M1Fアサルト・ライフルは、ブルガリアで改良された5.56mm×45口径のAK47(カラシニコフ)アサルト・ライフルの発展型だ。ショルダー・ストックの形状に改良が加えられサイド・スイング・タイプに改められた。またマズル部分には、近代化されたスリット入りの独自のマズル・コンベンセイターが装備されている。これらはロシア政府の方針転換で各国にパテント・ロイヤリティーを請求する方針が打ち出されたための改良だ。ブルガリアは最大限の改良や改造を加え、外見をオリジナルと変えることでロイヤリティーの支払いを軽減しようとしていると伝えられる。



▼▶アーセナル社製モデルM4 UBGLアッドオン・グレネード・ランチャー付きモデルAR-M1アサルト・ライフル。AR-M1アサルト・ライフルは、ブルガリアで改良された5.56mm×45口径のAK47(カラシニコフ)アサルト・ライフルの発展型だ。黒色プラスチック製ショルダー・ストックの形状の一部に改良が加えられ、マズル部分に近代化されたスリット入りの独自のマズル・コンベンセイターが装備された。バレル下方に装備されているモデルM4 UBGLアッドオン・グレネード・ランチャーはブルガリアで設計されたもので、40mm NATOスタンダードのグレネードを発射できる。UBGLアッドオン・グレネード・ランチャーはM1からM6まで6型が製作されているが、ライフルへの装着部分が異なるものの、基本的なメカニズムは同一だ。アメリカのM203に似た構造で、バレルを前方にスライドさせてグレネードを装填する。



▼実機展示はなかったが、イランのDIO(ディフェンス・インダストリーズ・オーガニゼーション)社が公開した新型アサルト・ライフルが、モデルG3A3インブループド・ブルバップ・バージョンだ。G3A3インブループド・ブルバップ・バージョンは、ヘッケラー&コッホ社の技術移転でモデルG3A3アサルト・ライフルを製造しているヤングフザルサジが開発したブルバップ・タイプのアサルト・ライフルだ。G3A3インブループド・ブルバップ・バージョンは、そのモデル名が示すようにH&K原案のG3A3アサルト・ライフルをブルバップ・タイプに改造したものだ。実機が展示されなかったため詳細は不明だが、ローラー・ロックがそのまま組み込まれているという。



▼アーセナル社製モデル・アーセナルMG-1MS汎用マシンガン。アーセナルMG-1MS汎用マシンガンは、ブルガリアのアーセナル社が製造している旧ソビエト原案のPKM(カラシニコフ汎用マシンガン改)のコピー製品だ。ロシアは自由化後、カラシニコフ原案の小火器のライセンス・ロイ

ヤリティーを請求するように方針を転換した。そこでアーセナル社はショルダー・ストックのデザインを一部変更し、黒色プラスチック製として、製品名もアーセナルMG-1MS汎用マシンガンに変更した。さらに一部の製品のバレル部分には改良が加えられて、表面にフルートと細かいカットが入られて表面積を増加させ、冷却効果を増大させた。